

## V-Lowマルチメディア放送についての検討状況について

V-Low マルチメディア放送に関しては、現在技術的な側面を中心に検討を行っており、その状況は以下のようになっています。

### 1. ソフトビジネスモデルについて

#### ○ コンセプト

広くドライバーに道路交通情報関連情報を提供することにより、安全安心に寄与し、併せて輸送コスト削減などの経済効果、並びに CO<sub>2</sub> 削減効果などにより、環境負荷の低減を目指す。

#### ○ サービス概要

渋滞情報や交通規制などの道路交通関連情報を放送により提供しカーナビゲーションシステム(車載機)などに表示する。

#### ○ ビジネスモデル

ナビゲーションシステム(車載機)を新規に購入する利用者に対しサービス契約約款に基づき、端末課金での放送による情報提供の形態を想定している。(FM 多重放送による道路交通情報の提供と同様のモデルをベース)

### 2. 希望セグメント数

将来ニーズについては検討中ですが、東京・大阪・名古屋を含む放送区域では 1 セグ、そのほかの放送区域では 0.5 セグを想定しています。

### 3. ソフトへの参加主体

財団法人 道路交通情報通信システムセンター

### 4. 端末普及のための検討状況

#### ○ 正確なコアサービスの充実に向けた検討

高速・大容量の安定したデジタル伝送路による、情報提供の鮮度・精度の向上方策の検討。

#### ○ 車載機が多メディア対応やコスト削減を図る方向での規格の標準化の検討。

#### ○ 音声放送事業者との連携・乗り入れの検討

V-Low のサービス主体である音声放送事業者との連携により、音声放送事

業者からの情報を車載機の地図上に展開できるようにし、ユーザーに対する利便性を向上させることを検討中。

#### 5. 災害情報提供についての検討状況

##### ○ 気象業務支援センターなどからの情報の活用

地震・台風をはじめとするさまざまな気象情報を持っている、気象業務支援センターなどからの情報を防災・減災のための情報として、従来の道路・交通と連携してユーザーに提供していく方向で検討中。

##### ○ ブラウザーの導入や他の放送・通信メディアとの連携

従来(FM 多重による)の情報提供に加え、より柔軟で人間の感覚に即した情報提供を行うために、ブラウザーの導入を行うとともに、音声放送事業者や通信を用いた情報提供者との連携によるより新しい安心安全や利便性を確保する方向で検討中。

##### ○ M to M (端末間通信)の導入

非常時には、車載機が受信した情報を、その周辺のスマートフォン、らくらくフォンなどの端末への展開も可能な仕組みの導入も業界の同意が得られれば検討する予定。

#### 6. 課題などについて

##### ○ 全国展開への見通し

全国展開の時期、サービスエリアの状況、受託事業者などの見通しが現在明確になっていない。そのため、現行の FM 多重によるサービスとの重複期間が長くなる恐れがある。その間放送メディアに対するコストの負担増や、V-Low 対応の車載機に対する普及への影響が懸念される。

##### ○ スマートフォンをはじめとする他のメディアによる事業との比較検討、及びこれらとの連携方策の検討

##### ○ 車両・車載機メーカーの意向を反映した、ビジネスモデルの確立及び、業界全体および関係機関の合意形成。

##### ○ 方式、符号化、TAG など規格化プロセス

従来の FM 多重(文字放送準拠)からデータ放送準拠に符号体系を移行するなど、VICS 独自の情報源符号化を行う必要があるため、より広い規模での車載機・車両メーカーなど業界の合意形成を行う必要がある。

また、防災・減災にかかわる情報を的確に届けるためにはブラウザーの導入が必要になるため、道路交通関連情報を扱うための TAG の定義と承認が必

要となり、またそれに対応したブラウザーの開発も必要となる。

○ 段階ごとの導入に伴う課題など

ブラウザーの開発や、他事業者との連携方法の確立、TAG や名前空間の扱いなどを決めていくには非常に時間がかかるため、

①FM 多重からのメディアの移行、②ブラウザーの導入、③他事業者との連携、④端末間連携と 段階を追ってサービスを導入していく必要がある。このため、サービスイン直後は、単なるメディアの移行だけになり現行 FM 多重サービスとの差別化が難しく、普及に対する懸念が生じる。